



News Letter

No.8

2003年4月16日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原2-22-17-403

http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8590 FAX 03-3530-8578

日本の反戦運動の課題

もっと幅広い結集をめざそう

伊藤彰信(レイバーネット日本代表)

イラク戦争反対の集会は、市民運動を中心としたワールド・ピース・ナウ実行委員会が主催した集会上、3月8日4万人、3月21日5万人と最近にない高まりを見せている。しかし、2月15日1000万人を超える参加者があった世界的な反戦運動と比べると日本の反戦運動の課題は多い。

運動を組織する場合には、政治目標(今の場合は「イラク戦争反対」)の明確化、参加者の自発性の尊重、幅広い戦線づくりが重要である。この点から考えると、日本の労働運動は、そもそもイラク戦争反対に立ち上がらないという問題を抱えているが、立ち上がってもバラバラの取り組みであり、欧米のように市民運動と労働運動が連携して何十万人のデモを組織するようにはなっていない。

労働運動の立場から言えば、今こそ職場からの反戦闘争が重要である。欧州労連が3月14日15分間ストを行ったが、全労連は3月15日、連合は3月18日にそれぞれ集会を開いただけであった。平和フォーラムはワールド・ピース・ナウ実行委員会の呼びかけ団体のひとつであり、全労協はワールド・ピース・ナウ実行委員会の集会に参加している。陸海空港湾20労組は3月21日、ワールド・ピース・ナウ実行委員会の集会とは別の場所で集会を開いた。今まで「有事法制反対」の一点で幅広い結集を追求してきた陸海空港湾20労組が、イラク戦争反対で市民運動と同じ時間に別個の集会を開催したことは、運動に分断を持ち込むものであった。今後、有事法制反対闘争を幅広く組織することができるのか疑問を覚える。

イラク戦争反対の人が7～8割なのに対して有事法制反対の人は3～4割である。イラク戦争に反対の人でも、小泉首相のアメリカ支持は理解できる、有事法制は必要だという人は北朝鮮の脅威を指摘する。北朝鮮脅威論を煽って有事法制を成立させ、アメリカの侵略戦争に参加しようとしているのが小泉政権である。有事法制反対闘争を盛り上げるカギは、北朝鮮問題の平和的解決への認識を図ることである。韓国の人は朝鮮民主主義人民共和国と戦う意志などない。同胞意識が勝っているのである。

ワールド・ピース・ナウ実行委員会の主催する集会に参加して、特に若い人の参加、家族連れの参加が多く、日本の将来も捨てたものではないと頼もしいものを感じる。しかし、3月21日、芝公園に行ったとき「労働組合の人は向こうです」と言われた。何か市民運動から排除された印象を持った。私はシュプレヒコールを叫ぶ旧来型のデモが好きだ。「そんなダサいデモに入る気になれない」と言って集会をラリーと呼び、デモをパレードと呼ぶ工夫をすること



イラクへの開戦に抗議する人びと(アメリカ大使館、3/20)は大切だと思う。だけど、労働運動を排除することが運動を広げることだと言う意識も間違えだと思う。

レイバーネットはこの間、さまざまな団体の運動を幅広く報道している。集団でサイトを運営している特色が生かされていると思う。この姿勢が運動の高揚と幅広い結集に役立つと信じたい。

4月例会のご案内

日時 4月24日(木) 午後6時45分～9時

会場 シニアワーク東京(飯田橋)セミナー室

テーマ 「新しい反戦運動の可能性 労働者・市民の壁をこえて」

報告 中島 浩(ワールド・ピース・ナウ(WPN)実行委員・全労協全国一般東京労組・日刊工業新聞労働者組合) 他

ビデオ上映 『『立ち上がる市民 イラク反戦運動ドキュメント2003春』(仮題・20分)』
内容紹介 世界のイラク反戦運動のうねりに呼応して、ついに日本の市民運動も立ち上がった。ビデオプレスの独自の大胆な視点から、反戦運動の歩みを捉えたドキュメント。

参加費 500円(会員の方は無料)

複数管理方式が活きる

反戦報道をリードしたレイバーネット

松原 明 (副代表)

今年に入り、世界が戦争モードに突入するなかで、私たちレイバーネット日本ができることは、労働者の視点に立った反戦報道を行い、戦争の流れに少しでも抗することだった。1月18日の世界同時反戦行動などをきっかけに、レイバーネット日本のウェブサイトにも反戦情報がどんどん載るようになった。

こうした記事や配信を支えているのは、すべてボランティアスタッフである。だれに命令されたわけでもない。各自の時代への危機感と献身性で支えられてきた。とくにZOPE (ゾープ) 方式というだれでも簡単に記事を書き込める方式を採用しているメリットが今回活かされた。普通のホームページであれば、一人の管理人が「シャカリキ」になって更新するところを、レイバーネット日本の場合は完全に複数管理式になっていて、トップページの書換えやニュース・イベントの提供を各自のパソコンから簡単にできる。今回の報道では、5人前後のメンバーがトップページの書換えを行っているが、とくに打ち合わせもしていないのに、比較的バランスがとれた紙面づくりを実現している。

複数メリットは、内容面でも表れていた。たとえば大きな反戦デモなどがあると、映像が得意な人はビデオやデジカメを使って「写真速報」という形でその日のうちに画像をアップした。文章が得意な人は「レポート」を書く。英語が得意な人は英訳して海外に発信する。韓国に強い人は韓国のサイトから次々に情報を流すなど、さまざまな「得意技をもった個人」が組み合わせあって情報提供ができた。

さらに労組系列や政党の違いなどにとらわれずに「幅広く」報道しているのも、レイバーネット日本の特徴だ。市民系も全労協系も全労連系も連合系も、いい運動なら載せたいというのが共通した志向になっている。それは、レイバーネット日本が「個人を母体とした情報ネットワーク」の自由さを持っているから可能だとも思うし、狭い党派系列の運動スタイルへの批判をメンバーが共有しているからかもしれない。

いずれにしろ、こうしてレイバーネット日本の反戦報道は定着し、アクセス数も急増している。イラク開戦時には、1日1000以上に達し、なかなかつながらないという事態まで起きた。

先日、レイバーネット日本の拡大事務局会議で、ある人が「集会報道などの記事を書く場合に、客観報道的に書いたらいいのか、個人的主観で書いたらいいのか迷っている」という問題提起をした。その時の議論では「筆者を明らかにした上で個人的主観記事でもいいのでは」ということになった。もちろん、いつどこで何があったか、という1H5Wの基本情報は伝えてほしいが、内容は個人的見方であっていいと私も思った。事実、そうした報道や感想のなかに新鮮な視点が提供されることが多い。

インターネットの良さは、紙面の制約がないので多くの個人が多くの見方・情報を流せることにもある。一つの集会の報道・感想が5つも6つもあると、



地域ユニオンのメンバーが頑張る
(アメリカ大使館前 3/20)

それを総合的に見ることで「客観的」にも「相対的」にもなると思う。

レイバーネット日本は3年目といえ、まだまだヨチヨチ歩き。今回初めてこうした形で、ネットワークを組んだ「報道体験」をしたと言ってもいい。「戦争」「大リストラ・失業」というとてつもない時代に突入してしまっただけで、そんな中で、より有意義な活動が出来るように知恵を出し合いたい。

レイバーネット日本・掲示板に寄せられた声

統一平和集会の実現を願う

今回の米英の軍事侵略に反対する市民、労働団体総てが一体となった平和集会を開くことは出来ないのでしょうか。英米軍のイラク侵略開始後も、世界中に反戦・非戦の運動が、日に日に盛り上がってきています。日本でも各地で市民運動や労働運動を中心とした、様々な反戦・非戦運動が活発に行われています。特にインターネットを通じた情報でますます運動の色彩が豊かになってきました。WPNのネットワークによる平和集会に、組織されない市民が個人で参加しているのは、新しい運動が広がっていることを物語っています。

市民運動が主義・主張、思想・心情の違いを越えた運動を展開しているのに比べ、労働運動はまだまだ溝が埋まっていないように見受けられます。平和を望む人達が統一した平和集会を開けば、日本中で百万人以上のの人々を集めることも不可能ではありません。対米追従外交を推進する小泉政権に対しても衝撃を与えることにもなります。

統一地方選挙が行われる時期ですが、各首長・各議員候補も平和に無関心ではいられないと思います。選挙運動ばかりではなく平和運動も盛り上げ、統一平和集会が実現することを願ってやみません。
(3月26日 佐藤直己)

レイバーネット日本第3回総会を開く

さらに意欲的に3年目に突入

2003年3月1日にシニアワーク東京（東京・飯田橋）でレイバーネット日本第3回総会が開かれた。雨の中で開催された総会の参加者は30人余だった。

短い時間だったが、事務局から提案された方針案をめぐってさまざまな意見が出された。労働運動・反戦運動の現場からの情報発信の重要性や、会員拡

ざまな分野で活躍されている方が参加されている。今回初めて運営委員に選出された2名の方はいずれも女性である。

会計報告については、レイバーフェスタ2002が赤字をほとんど出さなかったためレイバーネット日本からのフェスタへの支出がほとんどなかったことが報告された。レイバーネット日本の会費納入状況を含めた会計報告については、諸般の事情により会計処理が終わらなかったため後日報告するということで了承された。

総会後には、総会記念企画として、レイバートーク「民営化に対抗する世界のうねり～世界社会フォーラム2003参加報告～」がおこなわれた。2003年1月23～28日、ブラジル・ポルトアレグレに156カ国から約100万人が集まった「世界社会フォーラム2003」という大集会に参加したお二人を招いての企画だった。佐久間誠さん（闘う国労闘争団）からはスライド付きで、会場周辺の雰囲気も伝わる全体的な報告をいただき、大屋定晴さん（首都圏青年ユニオン、ATTAC-JAPAN）からは各国の運動相互の関連も含めて世界社会フォーラムの理論的・運動論的な課題にも触れた報告だった。報告後の質疑応答・議論も活発になされて、とてもいい企画だった。総会後は、懇親会をおこなった。



大のためのパンフレット作成、ニュースレターの年4回発行の定例化などが総会参加者から意見として出され、それも含めて採択された。

総会では2003年度の運営委員も選出された。さま

2003年度の活動方針

1.現場からの情報発信を強化する。

・現場にいる人が直接書き込めるウェブサイトであるにもかかわらず、その利点が活かされていない。今年は書き込むことのできる人を意識的に増やすための手だてを積極的に打っていきたい。

インターネットやビデオの使い方講座（初級者講座）を定期的を開く。

運動の現場にいる人からの情報が不足している。そういう人に電子メールの使い方やウェブサイトに掲載する方法を伝えていくことで結果としてウェブサイトも充実するし、運動にも役に立つレイバーネットにすることができる。運動の必要性から活用方法を拡大していくこと、その経験を交流していくことが大切である。こうした活動の中で、労働組合指導部のインターネットにたいする認識も深まると考えられる。

ウェブサイトの管理をできる上級者を育成するための上級者講座を開く。

現在は、トップページなどに写真などを掲載することのできる程度のこと、ごく少数の会員しか関わっていない。これも多くの会員が直接関わられるように技術講座を開く。将来のためにもインターネット技術に長けた人材を運動の中で育てていく。

2.ウェブサイトの充実のために

基本は、上述したような現場からの情報発信を強化することである。

その他にレイバーネット日本の重要な役割としての国際的な情報発信の問題がある。

日本国内の運動情報の海外への情報発信

国際部の翻訳体制を強化して少なくともタイトルは英語に翻訳して掲載していきたい。

海外情報の日本語での発信

韓国の情報は、おそらく日本で最もとも質量ともに充実しているが、他の国の情報があまりにも少ないとの指摘も受けている。国際部の翻訳体制を強化して対応していきたい。

3.例会の年4回程度の定例化。

会員どうしの直接の交流の場である例会を今年度は定例化したい。昨年度後半は、レイバーフェスタの準備との関係であいまいになってしまったが、今年度は担当者を置いて定例化をめざす。レイバーフェスタ実行委員会でも、フェスタを広く開かれたものにするためにレイバーシネマ講座などを検討なので、それとも連動させながら例会は定例化したい。

4. インターネット放送の具体化

インターネット放送を具体化する。そのための技術的検討を開始する。番組内容についても会員からの意見を集めて制作していきたい。会員の積極的な参加を求めていきたい。

5. 「レイバーフェスタ2003」にむけて全面的に協力していく。

昨年開催して大好評だったレイバーフェスタを今年も開催する。レイバーフェスタ開催の呼びかけ団体としてレイバーネット日本は今年も全面的に協力していく。昨年参加したある組合からの参加者は「今年もっといいビデオ作品をもっていきたい」と話していた。おおいに楽しんで積極的に参加できるフェスタにしていくために今年も協力していく。

6. レイバーネットの本の出版の検討。

レイバーネット日本をより広く知ってもらい活用してもらうための本の出版を検討する。

7. インターネットの国際的ルールのあるり方にも関心を払って発言していく。

8. 海外での労働メディア運動と積極的に交流していく。

韓国やアメリカでのレイバーフェスタや国際労働メディア会議などにこれまでも参加して、海外の活動家と交流してきたが、今後も交流を積極的におこなっていく。

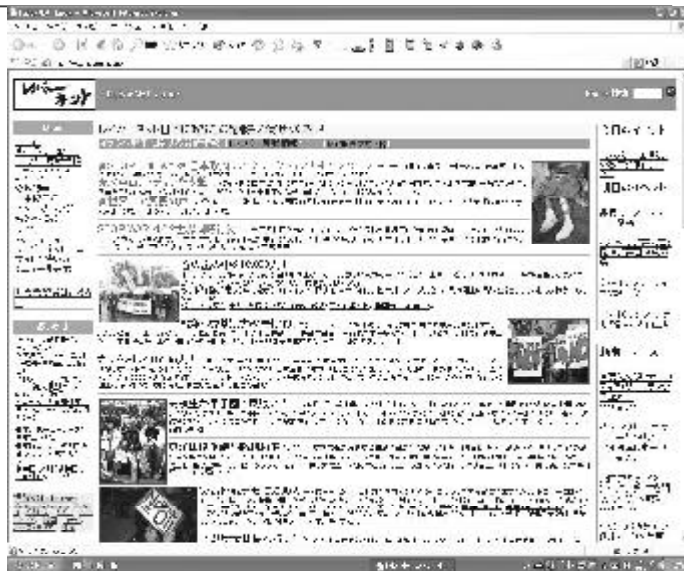
9. NPO法人化をめざす。

サーバーや回線の確保や財政の確立をはかるために、運動団体からの援助や公的援助(たとえば、パソコン教育の助成、海外交流の補助など)を受けやすいようにNPO法人化をめざす。

現在(4/9)の会員数(190名)。総会現在の会計残高404,381円。

レイバーネット日本 2003 年度役員

- 代表 伊藤彰信(全港湾)
- 副代表 松原 明(ビデオプレス)
- 同 安田幸弘(市民電子情報網)
- 事務局長 河添 誠(公務公共一般組合員)
- 事務局次長 片柳悦正(フリーランス)
- 同 神野圭介(首都圏青年ユニオン)
- 運営委員 浅井真由美(協同センター・労働情報) 新規
- 同 安斎徹雄(出版ネッツ組合員)



- 同 石川正志(たたかう闘争団に連帯する首都圏の会)
- 同 岩川保久(民衆のメディア連絡会)
- 同 佐々木有美(ビデオプレス)
- 同 高幣真公(APWSL日本委員会)
- 同 武田和治(ジャパンユニオン)
- 同 田島省三(国労闘争団)
- 同 中野 聡(山谷労働者福祉会館)
- 同 長岡義幸(出版ネッツ組合員)
- 同 新田 進(小川町シネクラブ)
- 同 広浜綾子(ワーカーズ・コープ・アスラン) 新規
- 同 安田浩一(ジャーナリスト)
- 同 八幡純一(国労組合員)
- 会計監査 下見徳章(「伝送便」編集委員)

今年もレイバーフェスタ開催

昨年初めて開催して大成功を収めたレイバーフェスタを今年も11月8日開催します。すでに労働スクエア(八丁堀)を予約しました。ビデオ、音楽、スピーチなど皆さんの積極的な参加をお待ちします。5月に実行委員会を立ち上げます。

前号はNo.7

3月1日にニュース前号を発行、第6号と題しましたが、第7号の誤りでした。次号は7月に発行予定。

新年度会費の納入をお願いします

レイバーネット日本は、個人を単位とする会員制度で運営されています。会員には、次のような特典があります。

- * 会員メーリングリストへの参加
- * レイバーネット日本のウェブサイトへの記事や情報の編集・投稿が可能
- * レイバーネット日本サイト内に自分のページを持てる
- * レイバーネット日本主催の研究会、講習会などのイベントへの優先参加
- * その他

入会をご希望の方は、下記の入力項目の事項を入力フォームか電子メールで送信(注意)するか、郵送、ファクスで下記の宛先にお送りください。年会費は3000円です。年会費は別途郵便振替でお支払いください。

- 年会費 3,000円
- 郵便振替 00150-2-607244
- レイバーネット日本
- 郵送宛先
- 〒173-0036 東京都板橋区
- 向原2-22-17-403
- レイバーネット日本事務局
- 入会申込用アドレス
- apply@labornet.jp.org
- 電話 03-3530-8590
- ファクス 03-3530-8578



(カット: 広浜綾子)